

# 2021年度 第1四半期 決算概要

2021年8月12日  
沖電気工業株式会社

## ご説明のポイント

### ■ 2021年度1Q業績

- ✓ 売上高・営業利益はサプライチェーン影響を除いて概ね計画通り。
- ✓ 構造改革費用（欧米販社）を特別損失に計上。

### ■ 2021年度通期見通し

#### （外部環境）

- ✓ 海外の新興国においてコロナ影響は依然残る。
- ✓ サプライチェーン影響による半導体他部材調達リスクが顕在化。
- ✓ 製造業回復にとまない、特にFA・半導体製造装置市場の好調続く。

#### （業績予想）

- ✓ 期初計画から変更無し。
- ✓ 部材調達リスクに対しては生産調整等によりコントロール、費用対策も含め影響の抑制を図る。

- 2021年度第1四半期は、営業損益以下、赤字の決算ではございますが、売上・利益とも全般的にはサプライチェーン影響を除き、おおむね想定どおりの数字で着地しております。
- なお、今年度の当社を取り巻く現在の経営環境ですが、残念ながら、依然海外の新興国でのコロナ禍の影響を受けていることに加え、サプライチェーンによる半導体等、部材調達リスクの顕在化を認識しており、これらの状況を注視しつつ対応をしております
- 一方で、全般的な製造業の回復、特にFA・半導体製造装置の好調な市場環境にも支えられ、当社でもモノづくりプラットフォーム事業が恩恵を受けております。
- 以上のような状況を踏まえ、今回、年間業績見通しについては、期初計画からの変更はございません。
- 部材調達リスクに関しては、部材確保やお客様への納期調整、および生産調整などによりコントロールを行い、費用対策も含め、影響の抑制を図ってまいり所存です。

## 2021年度 第1四半期 決算の概要

- 売上高はコンポーネント&プラットフォームで増収となるもののソリューションシステムの減収により全体として前年比減収。
- 営業利益は減収影響大きく前年比減益。
- 為替差益により営業外収支は改善、欧米販社の構造改革費用を特別損失計上。

(単位：億円)	21年度 実績	20年度 実績	前年比
売上高	799	814	△15
営業損益	△30	△11	△19
経常損益	△28	△21	△7
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△38	△33	△5
USD平均レート (円)	109.5	107.6	+1.9
EUR平均レート (円)	132.0	118.5	+13.5

- 売上高は、前年比15億円減少の799億円となりました。コンポーネント&プラットフォーム事業は増収となりましたが、この四半期ではソリューションシステム事業の減収が大きく、全体では前年度比減収となりました。
- 損益につきましては、売上高の減少により、営業損益は30億円の損失、経常損益につきましては、為替レートの改善により営業外損益が良化した結果、28億円の損失にとどまりました。
- また、事業構造改革費用6億円を特別損失として計上しており、最終的に当期純利益については38億円の損失となりました。
- 期中の平均為替レートは、USドル109.5円で、対前年1.9円の円安、ユーロは132円で、同じく13.5円の円安となっております。

## 2021年度 第1四半期 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)

売上高	21年度 実績	20年度 実績	前年比
ソリューション システム	339	396	△57
コンポーネント& プラットフォーム	459	416	+43
その他	1	2	△1
合計	799	814	△15

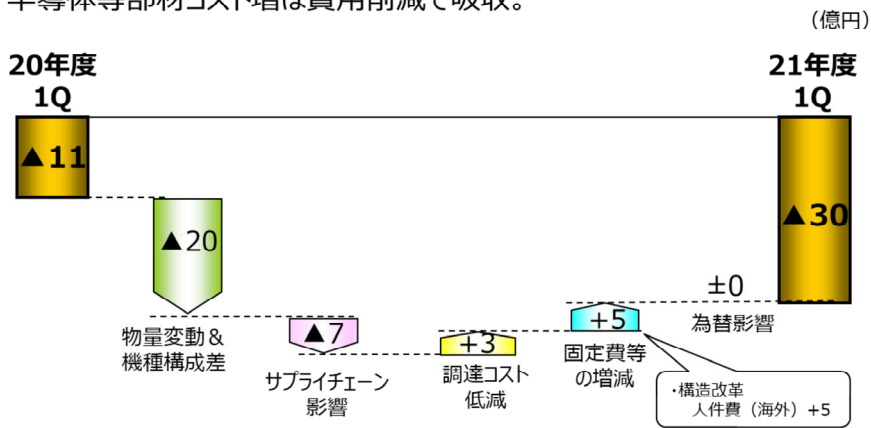
  

営業利益	21年度 実績	20年度 実績	前年比
ソリューション システム	△1	18	△19
コンポーネント& プラットフォーム	△16	△16	±0
その他	0	0	±0
消去・本社費	△13	△12	△1
合計	△30	△11	△19

- 売上高については、ソリューションシステムは前年比57億円の減少となる339億円、コンポーネント&プラットフォームは前年比43億円の増加となる459億円となりました。ソリューションシステムは昨年上期に大口案件があったため減収となりましたが、コンポーネント&プラットフォームは、海外の新興国でのコロナ影響が残るものの、欧米の経済回復や国内製造業の回復といった市場環境を背景に、昨年対比では売り上げを伸ばすことができました。
- 営業利益については、ソリューションシステムは前年比19億円減少し、1億円の営業損失となりました。この四半期で見ると売上減による影響が大きく、これにサプライチェーン影響も重なり、営業赤字となりました。コンポーネント&プラットフォームは、一部好調な市場の恩恵や、昨年来進めております構造改革効果も出始めておりますが、さらなるトップラインの増強に向けた先行投資等もあり、前期と同額の16億円の営業損失となりました。

## 2021年度 第1四半期 営業利益の変動要因

- 物量変動は主にソリューションシステムによる影響。
- コンポーネント&プラットフォームは物量増によるプラスがあるものの自動機の先行投資等コスト増もあり相殺。
- 半導体等部材コスト増は費用削減で吸収。

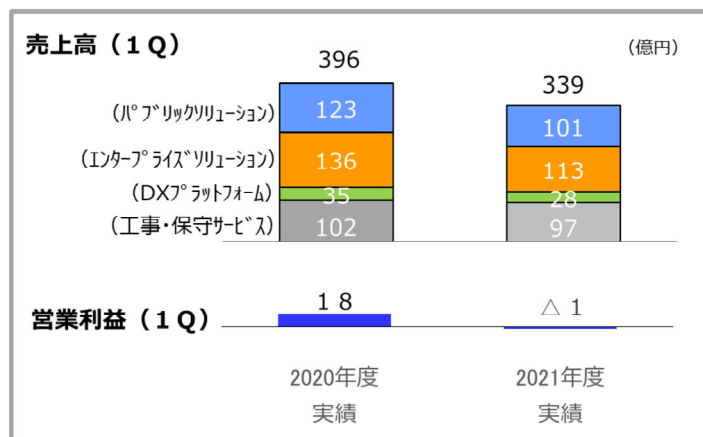


- 営業利益の前年からの変動を階段チャートにしたものです。なお、今回より5億円単位でのラウンドアップではなく、実数で表記をしております。
- まず、前年からの物量変動、機種構成差影響について、この四半期ではソリューションシステムの物量減による影響が大きく、これをコンポーネント&プラットフォームの物量増により一部打ち返しましたが、主に自動機分野での、今後のさらなるトップラインの伸長に向けた先行投資等のコスト増もあり、トータルではマイナスの20億円となりました。
- また、この第1四半期におけるサプライチェーン影響は、主に半導体等部材の調達難により、全体では7億円程度の影響がありました。
- これを中計で掲げた構造改革、特に調達コストの低減で同額程度打ち返しを行いました。逆に調達難に伴う値上げ影響もあり、この構造改革調達コストの低減効果は、全体としては、3億円程度の低減効果にとどまりました。
- また、海外で実施している構造改革の効果は、この四半期では5億円程度出ており、固定費ベースの削減は着実に進んでおりますが、全体としては、対前年比減益となっております。

## ソリューションシステム事業 概況

### ■ 1Q実績

- ・サプライチェーン影響を除けば概ね計画通り。
- ・DX領域売上は年間計画に向けて順調に積上 (1Q売上 62億円)。



#### ■ パブリックソリューション

- ・道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防
- ・中央官庁業務システム、政府統計システム
- ・防衛システム (水中音響/情報)
- ・インフラモニタリング

#### ■ エンタープライズソリューション

- ・キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
- ・金融営業店システム、事務集中システム
- ・鉄道発券システム、空港チェックインシステム
- ・製造システム (ERP/IoT)

#### ■ DXプラットフォーム(プロダクト/サービス)

- ・AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW
- ・PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター
- ・クラウドサービス

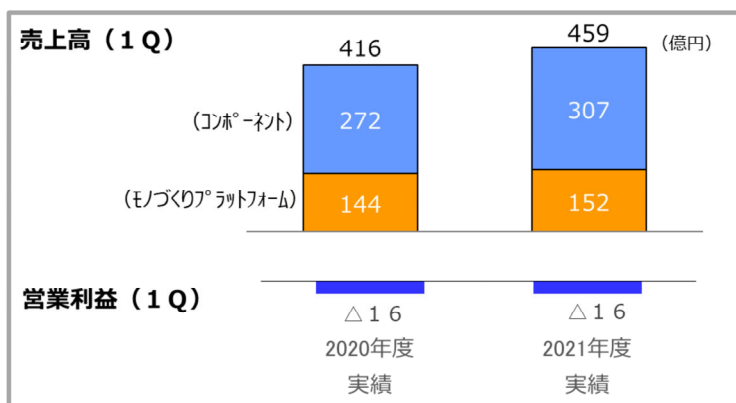
#### ■ 工事・保守サービス

- 前回の決算発表時の事業部門からのご説明をベースに、各事業のサブセグメントの動きを、前年との比較で記載しております。これと併せて、今後のソリューションシステム事業の重要な成長戦略でもあります、DX領域の進捗状況についても、定期的にお伝えしていきたいと考えております。
- この第1四半期の売上実績は、DX領域の売上は62億円となっておりますが、年間計画達成に向けては順調にパイプラインが積み上がってきております。今後もこのような形で継続してご報告申し上げていく予定でございます。

## コンポーネント&プラットフォーム事業 概況

### ■ 1Q実績

- ・モノづくりプラットフォームはFA/半導体製造装置向け他好調続く。
- ・コンポーネントは欧米の経済回復によるプリンター消耗品需要増、新興国では依然コロナ影響が残る。半導体等サプライチェーン影響があるものの増収。
- ・収益面では自動機事業で先行投資負担があるものの、情報機器事業及びモノづくりプラットフォームでカバー。



- モノづくりプラットフォームには、主にFA・半導体製造装置向けの好調が続いており、これが追い風となっております。
- 加えて、コンポーネント分野でも、欧米での経済回復によるプリンター消耗品の需要増と、自動機の国内市場では、設置台数を伸ばす等のポジティブな動きも出てきております。一方で、海外、特にAPACをはじめとする新興国でのコロナ影響は、残念ながら続いておりますが、トップライン全体といたしましては増収を実現できました。
- 収益面でも、これまでのご説明のとおり、情報機器事業、およびモノづくりプラットフォームによる営業利益の改善、かさ上げはございましたが、主に自動機事業における先行投資負担等もあり、営業利益は前年と同額のレベルとなっております。

## 2021年度 第1四半期 B/Sの概要

- 各資産・負債の構成に大きな変化無、総資産は圧縮。
- 自己資本比率は0.3ポイント減少。

(単位：億円)	21年 6月	21年 3月	前年度末比
流動資産	2,051	2,222	△171
固定資産	1,512	1,510	+2
資産の部	3,562	3,732	△170
流動負債	1,471	1,541	△70
固定負債	1,021	1,058	△37
負債の部	2,492	2,599	△107
自己資本	1,068	1,130	△62
その他	2	3	△1
純資産	1,070	1,133	△63
負債及び純資産合計	3,562	3,732	△170
自己資本比率(%)	30.0	30.3	△0.3
DEレシオ(倍)	0.7	0.7	±0

- バランスシートについて、各資産・負債の構成に特段大きな変化はございません。
- 総資産は前期末から170億円減少の3,562億円、自己資本は62億円減少の1,068億円となりました。この結果、自己資本比率は30.0%、DEレシオは0.7倍となりました。



## 2021年度 第1四半期 キャッシュフローの概要

■ フリー・キャッシュフローは運転資本良化により改善。

(単位：億円)	21年度 実績	20年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	214	160	+54
II 投資キャッシュフロー	△43	△35	△8
フリー・キャッシュフロー( I + II )	171	125	+46
III 財務キャッシュフロー	△66	△68	+2
現金および現金同等物の残高	525	521	+4
固定資産取得額	46	25	+21
減価償却費	31	30	+1

- キャッシュフローです。
- フリーキャッシュフローは、運転資本の改善が進み、営業キャッシュフローが良化した結果、前年対比で46億円の増加となりました。

## 2021年度 通期業績予想

- 期初計画から変更無し。

前提為替レート  
USD : 105円  
EUR : 120円

(単位：億円)	21年度 予想	20年度 実績	前年比
ソリューション 売上高	1,985	1,908	77
システム 営業利益	165	163	2
コンポーネント& プラットフォーム 売上高	2,010	2,015	△5
営業利益	25	△4	29
その他の 売上高	5	6	△1
営業利益	0	△1	+1
消去・本社費 営業利益	△70	△64	△6
連結合計 売上高	4,000	3,929	71
営業利益	120	95	25
経常利益	120	94	26
当期純利益	35	△2	37

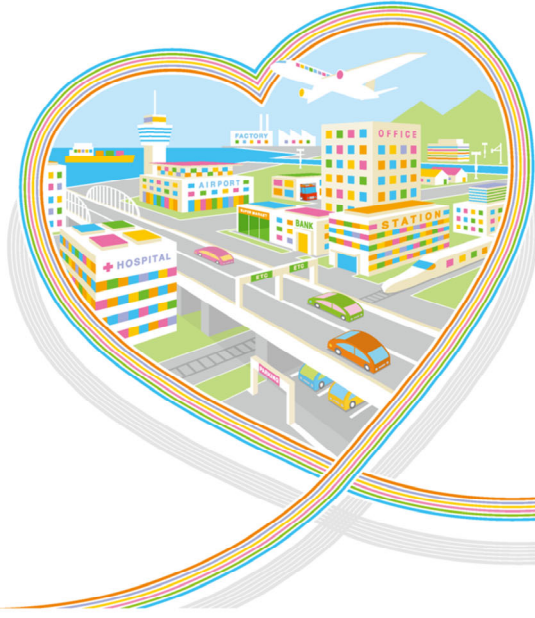
※2020年度実績はリステート後

- 結びになりますが、通期業績予想です。
- これまでご説明申し上げてきたとおり、一部地域におけるコロナ禍の影響やサプライチェーンの影響等、不透明感は残り、払拭できないリスクもございますが、全社一丸となって各種対策を行い、中期経営計画達成に向けて注力してまいり所存でございます。
- よって年間の業績見通しについては、期初計画からの変更はございません。
- 以上、簡単ではございますが、第1四半期の決算の説明とさせていただきます。
- ご清聴ありがとうございました。

## ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：  
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。  
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。



*Open up your dreams*